



江戸期から明治期における 石狩の歴史について知ろう ～村山家の資料をとおして～

村山家は松前藩のもと宝永 3 年 (1706) に石狩場所を請負い、初めて鮭漁を行っています。最盛期には蝦夷地の 35 場所を請負い、さらに樺太の漁場開発も行っています。この時の三代目村山伝兵衛は北海道開拓功労者として北海道開拓神社に 37 柱の一人として祀られています。六代目伝兵衛の時は石狩川流域の十三場所を一括請負いました。しかし、繁栄ばかりでなく何度かの苦難にも見舞われ、明治末期には石狩の鮭漁獲量が激減したことにより約 200 年の歴史を閉じています。この度は村山家の 10 代目の子孫にあたる村山さんに村山家の資料をとおして、江戸期から明治期までの石狩の歴史を語っていただきます。



後呂道德さん撮影

開催日 10月24日(火) 10:00～11:30

講師 村山 耀一(石狩市郷土研究会会長)

◆会場／石狩市花川北コミュニティセンター (花川北 3 条 2 丁目 TEL74-6525)

◆申込締切／ 10月17日(火) ◆ 受講料／ 無 料

◆申込み・問合せ／いしかり市民カレッジ運営委員会事務局 (社会教育課内)

※ 電話での申し込みは平日 (月～金) の 9 時～17 時までをお願いします。

TEL/FAX : 0133-74-2249

※ ホームページ、FAX は土・日でも受付可能です。

[いしかり市民カレッジ](#)

検索